

標準和名アズキウミヘビに適用すべき学名

日比野友亮¹・遠藤詢介²・古庄 誠³

Author & Article Info

¹北九州市立自然史・歴史博物館（北九州市）
yusukeology@gmail.com (corresponding author)

²九州大学農学研究院研究教育支援センター（福岡市）
macrogyrodactylus.73@gmail.com

³北海道大学大学院水産科学院海洋生物学講座（魚類体系学）（函館市）
makoto.furusho.jp@gmail.com

Received 21 April 2025
Revised 23 April 2025
Accepted 24 April 2025
Published 24 April 2025
DOI 10.34583/ichthy.54.0_72

Yusuke Hibino, Shunsuke Endo and Makoto Furusho. 2025. An applicable scientific name for the species named as “Azuki-umihebi.” Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 54: 72–74.

Abstract

A single ophichthid specimen collected off Hokota, Ibaraki, Japan in 2022 which was identified as *Ophichthus longicorpus* Vo and Ho, 2021 is re-examined by molecular and morphological methods. The COI sequence of the paratype of *Ophichthus multidentis* Hibino et al., 2024 agrees completely with that of the Japanese specimen, and there are no remarkable differences in their morphology, although slight differences in the proportional length of the tail, the position of the dorsal-fin origin and the number of the preopercular pores are recognized. Consequently, the standard Japanese name “Azuki-umihebi”, formerly proposed for *O. longicorpus*, should be used for *O. multidentis*. Based on the present study, the combinational diagnosis of *O. multidentis* is slightly modified as follows: head length 8.0–8.8% TL; tail length 56.8–59.2% TL; dorsal-fin origin behind pectoral-fin tip by 3–4 times the pectoral-fin length; posteriorly of opening of anterior-nostril tube slightly extended; no protrusions along upper lip; SO 1 + 3; POM 5 or 6 + 2 (rarely 3 one side); teeth on maxilla in 4 irregular rows or 5 rows anteriorly and 3 irregular rows to 4 rows posteriorly, teeth on vomer in up to 4 rows, teeth on dentary in 4 rows anteriorly, 3 rows posteriorly; body uniformly dark, median fins creamy white except for dark basal pigmentation restricted to ending; 22–30 predorsal and 63–65 preanal lateral-line pores; total vertebrae 162–164, MVF 25–64–163.

2022年に茨城県銚田市沖から得られたウミヘビ科の1標本は、古庄ほか（2023）によって *Ophichthus longicorpus* Vo and Ho, 2021 に同定され、新標準和名としてアズキウミヘビが提唱されるとともに日本初記録として報告された。古庄ほか（2023）はこの日本産標本について、頭部感覚管孔の数や肛門の位置に関連するいくつかの形態的特徴が *O. longicorpus* の原記載およびパラタイプの観察結果と合致しないことを認めたものの、このような差異は種内変異の範疇だと結論している。一方で、古庄ほか（2023）が報告した標本にみられた上記のような特徴を踏まえて形態を再検討した結果、形態的な特徴はむしろその後に記載された *Ophichthus multidentis* Hibino et al., 2024 と類似していた。このため本研究ではこれらを遺伝的な比較も含めて検討したので報告する。

材料と方法

使用標本は北海道大学総合博物館魚類標本コレクション（HUMZ）、台湾国立海洋生物博物館魚類標本コレクション（NMMB-P）、および台湾海洋大学魚類標本コレクション（TOU-AE）に保管されている。*Ophichthus multidentis* と古庄ほか（2023）が報告した HUMZ 233258 について種の異同を確認するため、*O. multidentis* のパラタイプ1個体（TOU-AE 7802）のミトコンドリア COI 部分配列（655 bp）を BLAST [URL](#) によって相同性検索を行い、HUMZ 233258 を含むウミヘビ科の各種と比較した。配列決定については Weigt et al. (2012) にしたがって、決定した配列情報については国立遺伝学研究所の国際塩基配列データベース（DDBJ）に登録されている（LC866665）。形態的な特徴については古庄ほか（2023）と Hibino et al. (2024) で使用された標本を参照し再検討した。全長については TL と略記した。

結果と考察

古庄ほか（2023）が報告した標本（HUMZ 233258, 436 mm TL）の COI 配列（LC764365）は *O. multidentis* のパラ

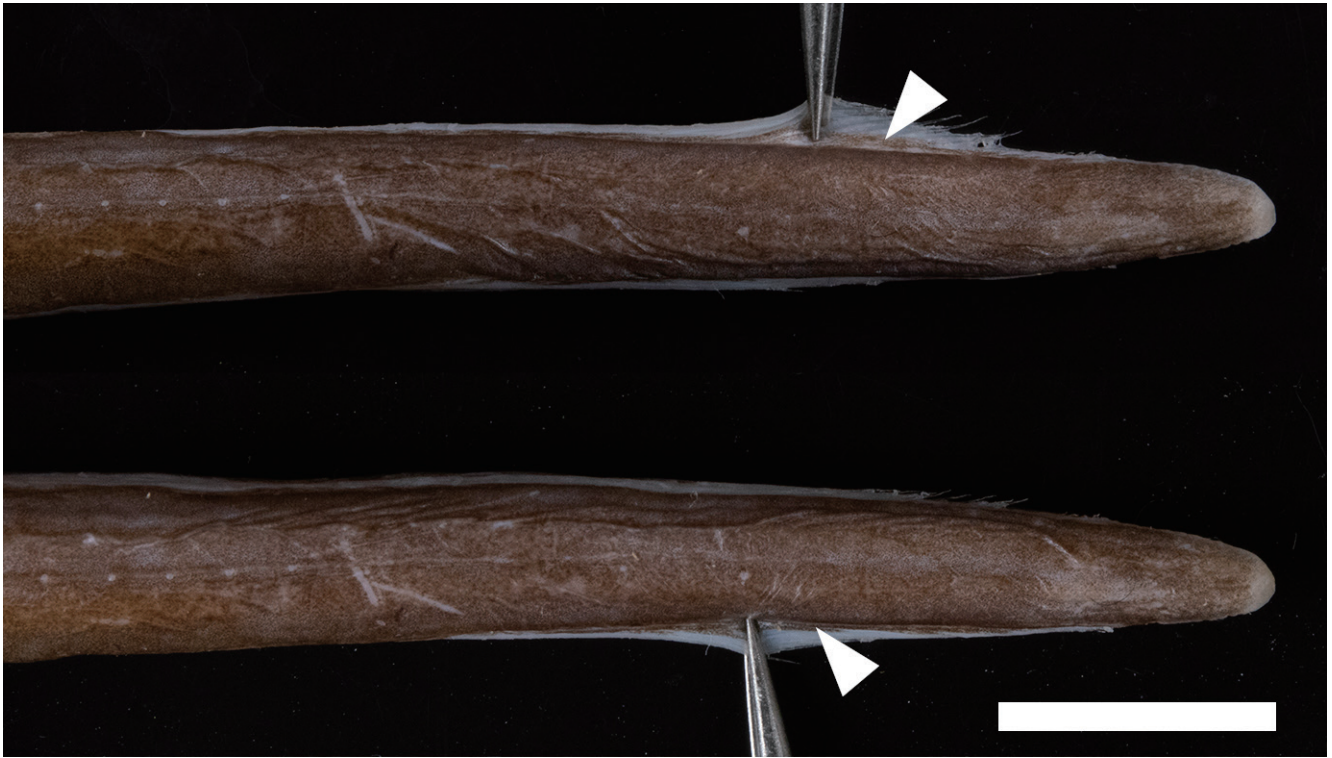


Fig. 1. Enlarged view around tail tip of *Ophichthus multidentis*, holotype, NMMB-P36205, 433 mm TL. Arrows indicate dark pigmented area of dorsal (upper) and ventral (lower) fins. Bar indicates 10 mm.

タイプ(TOU-AE 7802, 519 mm TL)のものと同様に100.0%合致し、その他、同様に合致もしくはきわめて相同性の高い配列情報は認められなかった。形態的な特徴については、本種の識別的特徴とされた尾部長 (*O. multidentis* のタイプシリーズでは 56.8–58.8% TL vs. HUMZ 233258 では 59.2% TL) や背鰭始部位置に関連する特徴である背鰭前脊椎骨数と背鰭前側線感覚孔数 (それぞれ 23–26 と 22–26 vs. 29 と 30)、背鰭前長 (15.1–18.0% TL vs. 19.5% TL)、および前鰓蓋感覚管孔数 (すべての個体で両側とも 2 vs. 左側は 2 で、右側は 3) にわずかな差異がみられたが (古庄ほか, 2023; Hibino et al., 2024)、これらの差異についてはタイプシリーズが 5 個体と少ないことによる種内の変異幅の網羅不足に起因するものであると推察された。

古庄ほか (2023) は HUMZ 233258 の背鰭と臀鰭の尾部後端付近に基底部の暗褐色域がみられることを報告したが、Hibino et al. (2024) は *O. multidentis* の生鮮時の色彩を「dorsal and anal fins pale」、固定後の色彩を「creamy white without melanophores」とし、このような暗褐色域には言及していない。そこで改めて本種のタイプシリーズを観察したところ、HUMZ 233258 と同様の暗褐色域が確認された (Fig. 1)。以上のことから、古庄ほか (2023) が *O. longicarpus* に同定したうえで標準和名アズキウミヘビの基準標本に指定した標本は *O. multidentis* に再同定された。したがって、標準和名アズキウミヘビに適用すべき学名は、*O. multidentis* である。これに伴い *O. multidentis* の識別的特徴を若干修正した。本種は以下の特徴の組み合わせに

よって同属他種から区別される：頭長は 8.0–8.8% TL；尾部長は 56.8–59.2% TL；背鰭始部は胸鰭後端直上よりも胸鰭長の 3–4 倍の長さ分後方に位置する；前鼻管は開口部後方がやや伸長する；上唇に沿う肉質突起がない；眼上感覚管孔数は 1 + 3、前鰓蓋—下顎感覚管孔数は 5 または 6 + 2 (稀に片側のみ 3)；主上顎骨歯は前方で 5 列または不規則な 4 列で、後方では不規則な 3 列から 4 列；鋤骨歯は最大で 4 列；下顎歯は前方で 4 列、後方で 3 列；体は一樣な暗褐色で背鰭と臀鰭は乳白色だが、尾端付近では基底部が暗褐色を呈する；背鰭前側線感覚管孔数は 22–30、肛門前側線感覚管孔数は 63–65；総脊椎骨数は 162–164；平均椎体数は 25–64–163 (古庄ほか, 2023; Hibino et al., 2024；本研究)。なお、*O. multidentis* は *O. longicarpus* とは両顎および鋤骨歯の列数が多いこと (両顎歯は 3 列以上で、鋤骨歯は 4 列に達する vs. *O. longicarpus* では両顎歯は概ね 2 列で、鋤骨歯は前方で 2 または 3 列、後方で 1 列)、尾部が長いこと (56.8–59.2% TL vs. 50.0–52.9% TL)、および平均椎体数 (25–64–163 vs. 27–68–159) によって区別される (Hibino et al., 2024；本研究)。

古庄ほか (2023) は日本産標本 (HUMZ 233258) の両顎歯のうち、口腔の外側に位置する歯の多くは先端が丸みを帯びて湾曲がなく、むしろ白歯状を呈することについて、何らかの影響で先端が欠損し、その後摩耗したものと推察した。*Ophichthus multidentis* のタイプシリーズはすべての個体において外側の歯がわずかに大きく、かつ太いうえ、先端も内側のものにくらべてやや鈍い。したがって、日本

産標本に認められたこのような両顎歯の形態的特徴は、個体単位のものではなく、本種の種としての特徴であると考えられる。

Ophichthus multidentis は原記載において台湾のみから知られていたが、日本国内にも分布することが明らかとなった。

謝 辞

本研究を進めるにあたり、田城文人博士 (HUMZ) には適切なお助言をいただいた。台湾海洋大学の Jian-Fu Huang 氏には *O. multidentis* のサンプル提供にご協力いただいた。記して御礼申し上げます。本研究の一部は、JSPS

科研費 (JP20K15593) (若手研究) と JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム (JPMJSP2136) の支援を受けたものである。

引用文献

- 古庄 誠・森川英祐・三澤 遼・田城文人. 2023. 茨城県沖で採集された日本初記録のウミヘビ科魚類 *Ophichthus longicarpus* アズキウミヘビ (新称). 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.23-019 (Aug. 2023), 70: 187–192 (Nov. 2023). [URL](#)
- Hibino, Y., H.-C. Ho and J.-F. Huang. 2024. Descriptions of two new dark-body snake eels of the genus *Ophichthus* (Anguilliformes, Ophichthidae) from Taiwan. ZooKeys, 1220: 63–78. [URL](#)
- Weigt, L. A., A. C., Driskell, C. C. Baldwin and A. Ormos. 2012. DNA barcoding fishes, pp. 109–126. In Kress, W. J. and D. L. Erickson (eds.) DNA barcodes: Method and protocols, Vol. 858. Humana Press, Totowa.